



循環器診察の「暗黙知」を ふんだんに盛り込んだ一冊

評者 水野 篤 聖路加国際病院循環器内科

本書が類書と比較にならないほどの明らかな優位性は、筆者の圧倒的なフィジカル能力は別として2点ある。1つは「動画・音声コンテンツ」。もう1つは「温故知新」である。

心音のみならず頸静脈などの動画を多く含んでいることに加え、筆者が「心尖拍動」といったかすかな視診・触診の所見を初学者にどう伝えるかを検討してきた末に到達した“ふせん”まで、過去にも動画・音声を含む書籍は多数あるが、それらと比較してもかなり豊富なコンテンツが盛り込まれている。

動画・音声で直接“五感”に訴える

スマートフォンやデジタルカメラといったデバイスの進化で、視診・触診のダイナミズムを実際に読者に伝えることが可能となった。何と言っても「百聞は一見にしかず」ということで、視診の大切さを再度思い出させてくれるだろう。

実際、例年神戸で行われる循環器 Physical Examination 講習会 (p.17) でも、今は心音に加え頸静脈、心尖拍動といった所見がかなりの要素で含まれるようになってきており、その講師たちのなかにある「暗黙知」をふんだんに盛り込んでいるので、読んでいて“お得感”がある。視診および聴診を合わせることで診断に近づくことができるということを、ほかの誰より筆者が楽しんでいることが伝わると思う。

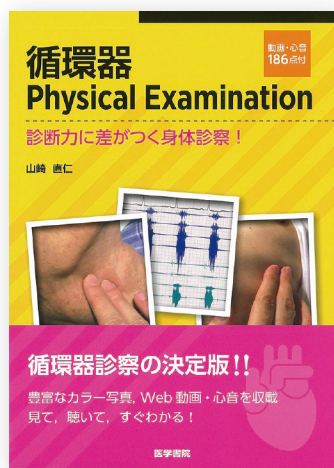
さらに、本書は動画や心音で、五感に直接訴えるだけではなく、偉大なる先人、吉川純一先生や福田信夫先生の書籍に近い含蓄、知恵というものを残している。ぜひ、細かな一言一句をかみしめて読んでほしい。これは、自分のような若輩者にはできないことである。本書を読むことで、おそらく過去の先人たちが何を大切にしてきたか、ということを感じることができるだろう。

最後の症例集においては、ぜひ読者のみなさんに、診断名を隠して疾患を当ててみることを推奨する。そういう意味では、自信がある読者には、動画コンテンツから入るという楽しみ方もある。

1つだけ、注意点がある。スマートフォンで閲覧できるようになったのは画期的であるが、心尖拍動や頸静脈のコンテンツは本当にかすかな所見であるため、電車などの振動で容易にわからなくなる。特に新幹線などではせっかくの音や頸静脈拍動も台なしである(笑)。

心を落ち着ける環境で、穴があくほど見て、繰り返し聞いて、身体診察のアートを感じてほしい。

G



循環器 Physical Examination

[動画・心音 186 点付]

診断力に差がつく身体診察!

山崎直仁=著

定価: 本体 5,000 円 + 税

B5・188 頁/医学書院/2017

[ISBN978-4-260-03235-3]